

——今年には戦後80年であり、昭和で数えて昭和100年、阪神淡路大震災から30年といった節目の年であります。さらには知恩院では昨年に関宗850年の慶讃法要があり、今年は開宗851年目に当たるわけでございます。また知恩院の布教活動の支柱となっております「おてつぎ運動」が昭和41（1966）年に始まってから来年が60年という節目を迎えることになりました。まず戦後80年の節目を迎えたことに感慨もひとしおではないか、と推察しますがいかがでしょうか。

伊藤唯眞げいか 戦後80年は本当に感慨深いですね。幼き日から振り返れば、私が生まれた年に満州事変（1931年）が勃発し、日本と中国の間で言えば日中十五年戦争とも呼ばれる戦争の時代が続いたわけですが、幼き頃には幼さゆえに、戦争は駄目なんだ、愚かな戦争はやめべきだ、といった考えを持つまでには至りませんでした。

ただ、太平洋戦争（1941（昭和16）年）が始まった頃には、軍部が発表する事柄（ニュース）には幼いながらも疑問に思ったことがありました。

それは真珠湾攻撃（日本時間1941年12月8日）の発表の際でした。攻撃の詳細を載せた記事を読んだとき、特殊潜航艇5隻せきの活躍が載っていて、米国の敵艦に突入した9人を軍神にして崇あがめていた記事だったので、5隻で9人というのは1隻あたり2人としても人数が合わない。一隻だけ一人乗りだったのか、と。これはどこかおかしいと思ったことを今も覚えています。その場では「発表どおりで間違いのないだろう」と最後は自分を納得させていました

### ●戦争の時代に生まれ育って「戦前を経験せず」

特集

# 戦後80年の節目に想う 平和の祈りをまもり継ぐ

浄土宗門主／総本山知恩院門跡 伊藤唯眞

（聞き手・知恩院執事 新谷仁海）

